

持論の邦人輸送中事例

首相が事実上、撤回

「あくまで新3要件で認定」

9/12 斎藤

安倍晋三首相は、11日の参院安保法制特別委員会で、日本が集団的自衛権を行使する「存立危機事態」の認定を「あくまで」新3

要件に該当するかが大切」と述べ、集団的自衛権行使を正当化するために自らが述べてきた「邦人輸送中の米艦防護」の事例を事実上撤回しました。無所属クラブの中西健治議員に対する答弁。

昨年7月の集団的自

衛権行使を容認した閣議決定後の記者会見で、安倍首相は「日本人を守るため」集団的自衛権行使を容認した」として「邦人輸送中の米艦防護」の事例を挙げてきました。しかし8月26日の同委員会で、中谷元・防衛相

が「邦人が(米艦船に)乗っているかいないかは(集団的自衛権行使の)絶対的な条件ではない」と答弁。中西議員が首相の認識を追及すると、「日本人が乗っていないか、船は守るが、ゼロだったら守らないというわけではな

い」「日本人が乗っていない船も守りうる」などと中谷氏と同様の答弁を繰り返しました。集団的自衛権は「日本人を守るため」とした国民への説明は、首相自ら「ごまかし」だったと認める形となりました。